

会 議 速 報

平成 28 年 12 月 26 日

件 名	平成 28 年度第 2 回鹿児島市船舶事業経営審議会	作 成 課	船舶局総務課
日 時	平成 28 年 12 月 2 日(金) 14:00~15:30		
場 所	桜島港フェリーターミナル 3 階大会議室		
出席者	経営審議会委員 8 名 (欠席者 1 名)		
市出席者	船舶局長、次長、営業課長、船舶運航課長、関係職員		
協議・報告等	<p>審議事項</p> <p>(1) 平成 27 年度鹿児島市船舶事業特別会計決算について</p> <p>(2) 利用状況の報告について</p> <p>(3) 鹿児島市船舶事業経営計画 事業評価 (平成 25~27 年度) の報告</p> <p>(4) その他 ・市地域防災計画及び船舶局の対応の見直しについて (報告)</p> <p style="padding-left: 20px;">・よりみちクルーズ船上セミナー (案内)</p>		
主な意見等	<p>○ 利用状況について、平成 28 年 7 月から対前年比が上向いてきているが、平成 26 年と対比するとまだまだほど遠い数字である。この数値から、これからの増収対策をどのように考えているか教えていただきたい。</p> <p style="padding-left: 20px;">→ 第二桜島丸の長時間運航できるという特徴を活かした貸切船の利用を新しい商品として醸成し、利用していただくことが必要。このほか、よりみちクルーズや納涼観光船など、県内の方々への更なる周知が必要。本市・錦江湾の隣接市町村と相互に事業等の情報交換を行い、イベントや観光資源の情報を収集し、旅行会社等への PR、学校への修学旅行の提案など、2020 年のオリンピック、国体などを見据えながら、地道に活動していきたい。</p> <p>○ 企業の収益も大事だが、公営企業なのでバランスを考えて経営していると思うが、あまり収益オンリーだと公共性が薄れていく。バランスをどうとるかだ。</p> <p style="padding-left: 20px;">また、保有する 6 隻について、船舶毎の収支をとって、収益に対し経費がかかる船をどうするのかなど経費のきめ細かいチェックが大事になってくる。</p> <p>○ 現在、高齢化、少子化が進んでおり、桜島地域の人口もなかなか増えていかないという状況で利用者数が減っていくということがみえてきている。船舶局として検討課題や認識しているものがあれば教えてほしい。</p> <p style="padding-left: 20px;">→ 桜島地域を含めて大隅半島全体の人口が減少してきているので、定期的にご利用する方は増えることはないだろうとみている。しかし、公共交通として事業を継続していかなければならないので、長期的に、運営、運航体制の見直しなど総合的な判断をしていかなければならないと考えている。</p> <p>○ 事業収益全体の 65%を占める車両収益が落ちている。ここで落ちたものはここでしか補えないと思う。また、車両収益を、旅客収益や雑収益では絶対補えないと思う。車両を増やすということを第一に考える必要があり、ターゲットは誰なのかを考える必要がある。「生活車両」は人口減少に伴いそれが伸びるということはないので、よくて横ばい。「ビジネス車両」は、東九州自動車道と競合し、勝てる公算が非常に少ない。もしポテンシャルがあるとすれば、レンタカーを借りた県外のお客様が桜島に渡るというような「観光車両」ではないか。鹿児島の観光は 2 次交通を避けて通れない。</p> <p style="padding-left: 20px;">橋を架けるのと同じで、渡った先に何もなければ誰も行かない、渡った桜島の観光開発というのを観光交流局と一緒にやらないと。錦江湾クルーズだけだったら、インフラを変えないと事業としてちょっと厳しいのではないかな。ポジティブに考えれば、時間はかかるかもしれないが、まだまだできると思う。</p> <p style="text-align: center;">《次ページに続く》</p>		

- 桜島には恐竜公園などがある。遠足に幼稚園や学校の行事として継続して実施してもらえたらいいのでは。フェリーは子供たちの憧れであり、乗った時の喜びは大きい。その喜びを与えるというのは鹿児島市の財産だと思うので、年間計画のなかに桜島への遠足をいれてもらうことは非常にいいのではないかと。
- よりみちクルーズの乗船券の小学一年生への配布の取り組みについて、市内から県内へ少し広げることが検討できないか。県内の大学生に聞いても、桜島フェリーに乗ったことがない、桜島に渡ったことがないという学生が結構多い。小学生のころに桜島に行くことがあったらもう少し親しみが変わるのではないかと。
- 経営計画の見直しにあたり、25年3月の策定時点ではなかった話題が現在いくつも出てきている。東京オリンピックや国体が2020年に開催されることや、2018年に大河ドラマが西郷どんになった。この二つの話題は経済界としても関心が強い。いかに桜島フェリーに結び付け、桜島や大隅にもっていくか。今、鹿児島は非常に追い風が吹いており、これだけ恵まれた環境のある県はそうないだろうと思っている。それをうまく利用しない手はないかと思うので、この計画の増収対策に書き込んでいくべきではないか。
- 経営計画のこれまでの取り組みの報告について、バンカーサーチャージの件は、桜島フェリーの運航体制では固定費がいい。また、経営健全化については、6隻から5隻にするという計画の方針について、これを見直すというのは結構なことだ。「観光」についての取り組みも積極的に取り入れるべきではないか。
- 桜島フェリーそのものが歴史的に大きな事故もなく続いていることや、船が前後一緒という形態、底が平らであるとか、バリアフリー船といったものなど、船舶のファンにとってはかけがえのないものなのではないかと思う。そういったものを全国に発信して、桜島フェリーに乗ってみたいというようなPRができないか。

《公表》鹿児島市船舶事業経営計画 事業評価（平成25～27年度）の報告 概要》

- ・ 同計画の各取組項目について、一部の、方針の変更や工期の変更、及び実施に至らなかったものを除き、計画に沿って業務を実施・実行した。
 - ・ 方針変更等（運航体制の見直し、バンカーサーチャージの導入検討）
 - ・ 実施に至らなかったもの（新たな広告媒体、新造船への自然エネルギー活用）
- ・ 経営計画には記載されていないが、27年4月に就航した第二桜島丸の特色を活かしたロングクルーズの運航や冬期のよりみちクルーズ船上セミナーなどを実施したほか、昨年の桜島の火山活動の活発化など不測の事態に対し、風評被害の払拭に向けた対応や危機管理体制の充実に向けた対応などにも取り組んだ。